

1. 授業の概要(ねらい)

心理学は大きな広がりを持ち、研究テーマや対象に応じて様々な研究方法が援用される。この授業では、実験心理学の方法論について、科学哲学的議論から、実際の研究手法について講義する。

2. 授業の到達目標

心理学で用いられる研究方法の中で、実験という方法の特徴を、その利点と限界点を含めて理解し、研究を実施するに当たり、他の研究方法との選択ができるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

学期末試験の成績のみで成績を決める。

4. 教科書・参考文献

教科書

テキストは使用しない。以下の書籍は理解を深める上で有益であろう。

参考文献

高橋昌一郎 『科学哲学のすすめ』(2002) 丸善

中丸 茂 『心理学者のための科学入門』(1999) 北大路書房

高野陽太郎・岡 隆(編) 『心理学研究法』(2004) 有斐閣

5. 準備学修の内容

予習は特に必要ないが、毎回の授業の後で、ノートを整理し、参考文献等を参照しつつ、基本的な概念や専門用語はもとより、講義内容を十分に理解する作業が必要になる。

6. その他履修上の注意事項

授業中の私語には厳しいペナルティを課す。

7. 授業内容

- 【第1回】 授業方針の説明、関連書籍・文献の紹介
- 【第2回】 実験心理学と科学の方法
- 【第3回】 実験研究と、それ以外の研究方法:関数関係と相関関係
- 【第4回】 相関研究(1):調査、観察、その他
- 【第5回】 相関研究(2):疑似実験研究
- 【第6回】 実験研究の妥当性
- 【第7回】 実験研究の信頼性
- 【第8回】 実験結果を一般化する方法:統計的手法
- 【第9回】 実験結果を一般化する方法:系統的追試
- 【第10回】 仮説演繹と実験
- 【第11回】 帰納的研究
- 【第12回】 実験計画法(1):実験参加者間要因配置法
- 【第13回】 実験計画法(2):少数実験参加者法
- 【第14回】 心理学研究の倫理:剽窃と捏造、再現性の危機について
- 【第15回】 まとめ